

# 加賀田神社 行事案内 (平成23年2号)

平成23年度《春》の行事

## 3月25日(金) 天神祭

午前10時催行・午後2時より餅まき

菅原道真公の命日(2月25日)に因んで毎月25日には日本各地の天神様を祀る神社で祭事が行われています。天神様は神話に登場する神様ではなく、平安時代に実在した人物、菅原道真公です。管公は今日学問芸術の神様として人々に信仰されており、入試合格祈願・学業成就祈願に訪れる人が多い。「天神信仰」は当地にも伝わり、当神社に合祀されている「菅原道真公」のお祭は、春の祭典として古くから催行されて来ました。またこの季節は小学校に初めて上がる児童にとって胸躍る時期でもあり、入学を祝い新入生を招いて祭典が行われます。新一年生に入学のお祝いの品を贈ります。

春の祭典は、桜の花も咲き、庶民の春休みで、お餅を搗いて祝い楽しむ日でもあり、現在も当社では総代様方のご奉仕で餅つき・餅撒きが行われます。

氏子の皆様、新入生の保護者の皆様、お揃いでお参り下さい。午後には、社務所前で餅撒きが行われます。大神様からの福を頂いて下さい。

### 天神信仰と菅原道真公【845年(承和12年)～903年(延喜3年)】

菅原道真公は幼少から秀才の誉高く、18歳で「進士」、23歳で「秀才」に合格し、33歳の時には菅原家伝統の官職である式部少輔と文章博士に任じられました。その後も出世を続け、55歳では「右大臣」にまで上がり詰め、当時の権力者であった「左大臣」藤原時平と肩を並べるようになりました。この異例の昇進を妬まれ、901年、左大臣時平らの策略で北九州の大宰府へ左遷され、2年後の903年延喜3年2月25日そこで失意の内に59歳で亡くなりました。当時他国で亡くなった政府高官の遺骨は都に送られる習わしであったが、管公は「自分の骨を都に返す事願わず」と遺言されました。近臣が遺骸を牛車で葬場に運ぶ途中牛が動かなくなったため、近臣はこれが管公の霊告であるとして、その地に埋葬し堂宇を建てた。これが管公の霊廟として信仰を集める大宰府天満宮の起源とされています。

天神信仰は管公の死と共に始まります。管公の亡くなられた903年には日蝕・月食・洪水・疫病が相次ぎ、6年に管公左遷の片棒担いだ参議藤原菅根が亡くなり、続いて藤原時平も後を追うように亡くなりました。時平一族は管公の怨霊だと恐れしました。その後も清涼殿に落雷があり多くの方が亡くなりました。ショックで醍醐天皇は病に就き、退位され朱雀天皇に譲位されました。この頃に、平将門、藤原純友の乱などが相次いで起こり、管公の怨霊に対する恐怖が高まりました。このようなことから、当時の人々の間に、怨霊を鎮めると言う怨霊信仰が生まれ、京都北野の雷神と結び付けられ「天神」として北野天満宮が創建され、987年永延元年に「北野天満宮大神」として勅祭が行われました。

やがて管公の怨霊が鎮まると、その後は人々の関心が管公の人柄・学問の業績に向けられ、管公は『学問の神様』として人々から崇敬されるようになり今日の天神信仰が広まりました。そして各地に勧請され、今日では全国に1万1千社も天神系神社があります。

加賀田神社 宮司 田中義光

加賀田神社 0721-64-1753

宮司 自宅 0721-25-9412